今月の PICK UP

『熊楠さん、世界を歩く。』 松居 竜五／著 岩波書店 289.1 ミ

南方熊楠（みなかたくまぐす）という人をご存知でしょうか。「神社の森を守る活動をした」「天皇に標本を献上した際、桐箱でなくキャラメル箱を用いた」等のエピソードが残る、明治生まれの研究者です。10代よりアメリカ、キューバ、イギリスで、33歳からは故郷の和歌山で採集、研究を続けました。研究分野は動物学、植物学、天文学、民俗学、歴史学など多岐にわたるため、彼を理解するのは難しいとも言われてきました。

著者は熊楠の書庫にある膨大な資料からその生涯を読み解き、熊楠を、宇宙すべてを対象に楽しさを求めて研究をした理解しやすい人である、と紹介しています。

【本館所蔵】

司書のおすすめ

『ハロルドとモード』 コリン・ヒギンズ／著 阿尾 正子／訳 二見書房 933.7 ヒ

狂言自殺を繰り返す19歳の青年ハロルドと、生を謳歌する79歳の老婦人モード。ふたりが墓地で出会い、やがて恋をするお話……とだけ聞くと、ほのぼのとしたラブストーリーを思い描く方もいるかもしれません。が、本書はその予想を豪快に裏切ってくれます。天真爛漫、天衣無縫、あるいは傍若無人ともいえるモードの言動は、ハロルドのみならず読者をもきっと驚かせてくれるでしょう。 【北部図書館所蔵】

『ケアする声のメディア』 小川 明子／著 青弓社 490.1 オ

病院内に設けられたスタジオから放送される院内ラジオは、病院という限られた空間だけに届けられる特別なラジオ放送です。人々はベッドで治療を受けながら、リハビリに取り組みながら、また家族に付き添いながら、放送に耳を澄ませています。この本はイギリスで誕生したホスピタルラジオの歴史や取り組み、日本の院内ラジオの実践などから、声によるケアの意義と役割について記されています。

【本館所蔵】

『夜に飲む リカバリースープ』 浜内 千波／著 WAVE 出版 596 ハ

夏バテしていませんか。病院に行くほどではないけれど体の不調のある方に本書をお勧めします。肩こりや不眠症、疲れ目、肌荒れ、ストレスなど、25の症状に効く75のスープが紹介されています。作り方は、取りたい栄養素を含む材料や調味料等、詳しく写真で説明されています。あなたも1日の疲れをリカバリーするスープを飲んでみませんか。 【本館所蔵】

『現地嫌いなフィールド言語学者、かく語りき。』 吉岡 乾（のぼる）／著 創元社 801 ヨ

著者は、パキスタンとインドで言語を調査・研究しているフィールド言語学者です。不便で過酷な現地の生活、何かと理由をつけて予定を先延ばししようとする協力者たちにうんざりし、日本に帰りたいと愚痴をこぼしながらも、現地に行く意義、フィールド調査の内容、現地での出来事などがユーモアもまじえて書かれています。タイトルや本文冒頭には後ろ向きな言葉が並びますが、言語の研究に真摯に向き合う姿やかける思いにふれ、読後は著者や本書に対する印象が変わると思います。

【本館所蔵】